

パパの帰り道

横田 然よこた ぜん

「また今日も、おそいんだね。」

ぼくはきまって、九じになるとこういいます。

ぼくのパパはとうきょうではたらいでいて、でん車にのって家に帰ってくるだけで一じかんいじょうもかかりません。

パパが家に帰ってくるのは、ぼくがねむったあとのもっとずつとあとです。

ママは、

「こんなにおそくなるなら、ホテルにとまったらよかつたの
に。」

と、たまに言います。

でもパパは、

「家に帰ってきたりゆうがあるんだよ。」

と、言います。ぼくは、どうしてそんなに家に帰ってきたい
んだらう。と、ずつとふしぎに思っていました。

パパの帰り道はきつとまっくらです。

ママがよいいしてくれたごはんも、たべるころはきつとつ
めたいです。おふるもぬるくなつてしまつているし、ふとんに

入るじかんだつてすこくおそいはずです。

それでもパパは、かならず帰ってきます。

土よう日のあさは、どんなにおそくにねても、かならずぼく
より早おきして、サッカークラブにつれていってくれます。

ねむいなんて言いません。

金よう日のよる、ぼくがねむるときにはまだいなかつたの
に、サッカークラブに行くところの車の中で話す、ぼくがす
きなテレビばんぐみのないようもぜんぶしつています。

いつのまに見たんだらう。パパはまほうつかいみたいだな
あ。そんなことを思いながらぼくはサッカークラブへむかい
ます。

パパがお休みの日は、ずつとぼくといつしよにあそんでく
れます。公えんに行くのも、ごはんをたべるのも、おふるに入
るのも、トイレだつて、おなじタイムングです。

もしぼくとパパがふたごだつたら、きつとむてきのスー
パーさいきようチームになれる気がします。

ぼくは、パパが大すきだからです。

さぬきえきいでん車がとうちやくして、えきから家にむか
うパパのじてん車の速さはじどう車をおいぬくんだとじまん
していました。

パパが帰つてきてくれるから、ぼくはまいあさ大すきなバ
パにあらうことができます。

パパ、いつもおなじ気もちでいてくれるんだと思います。

パパ、いつもありがとう。

今日もまっくらな道、気をつけてじてん車をかつとばして
帰つてきてね。